



秋田美喜雄議員

農業後継者及び花嫁対策は

既存の事業等を活用して取り組む

問 大山町は、県下でもトップクラスの農業町である。

しかし、全国的に限界集落が増える中、本町においても若い農業後継者が育たない、パートナー（伴侶）がないという現実がある。

答 （山口町長） 農林後継者について「新規就農」だけではなく「定年帰農者」等多様な観点から、関係機関と連携し、既存事業等を活用しながら取り組んでいる。

花嫁対策としては、大山町結婚対策協議会で、「パルパル」という愛称の活動を行っている。これは、社会生活の基盤となる夫婦縁組のため、男女が自由に交流しあう場所を提供し、求婚者の集いを広げることと、後継者対策を促進し、地域の発展に寄与することを目的としている。

しかし、女性の応募が少ないので、町内参加者のカッフルが増えるよう、参加の呼びかけを強めていきたい。

参加者を募集するパルパルチラシ

★★ 申込み／問合せ先 ★★
Pal×2 だいせん事務局（大山町企画情報課内）
TEL : 0859-54-5202
E-Mail : Pal2@daisen.jp
※電話での受付は平日の8時30分から17時15分までです。

大山ブランドと農業の関わりは

関係機関と連携し取り組む

問 大山恵みの里づくり計画、大山ブランド化は、町長の政策の中でも大きな柱のひとつだと思う。

大山町ブランド協議会や大山恵みの里公社も立ち上がっている。商品の一定量の確保や販売先、利益化等、ブランド化はそんなにたやすいものでないと考える。今後の取り組みは。

また、農業（農家）とどのように関わっていくのか。

商品の差別化には、ブランド化が必要であり、その販路を拡大することによって、農家の所得向上につながっていくことになる。

新しいものを作り出すことも大事だが、今あるものの価値をもう一度見つめ直し、それを大山と

答 （山口町長）

現在、ブランド協議会を立ち上げ、穀物、野菜、果物、畜産、水産、農産加工の6部会に分かれ、ブランドの基準について検討している。それぞれの部会には、関係団体の代表、関係農家、商店、公社及び町職員が部会員となり、知恵を出し合っている。

農協、公社と連携しながら、ブランド化の可能性について、模索・実証するため、協力のお願いをしている。



大山の豊かな自然が育んだ大地の恵みをどうぞ。



コンビニと提携して大山フェア